

# 古典中国美術 観覧案内

木島史雄

古典中国美術品に出会うことのできる美術館・博物館を紹介する。特に二〇一七年度の秋から冬にかけて特別展などが開催された館を中心に掲載した。特別展のありさまから、それぞれの館の特色もうかがえよう。

◇国立故宮博物院 <https://www.npm.gov.tw/ja/>  
台湾台北市士林區至善路二段221号

中国皇帝のコレクションを保存する世界最大の中国美術館。中国美術のあらゆる分野について優品を所蔵・展示する。常に複数の特別展示が行われ、中国美術の総体を把握するのにも、名品と向き合うにも最好適の美術館。

▽特別展「国宝の誕生——故宮書畫精華」二〇一七年一〇月四日～二月二十五日

故宮博物院所蔵の書畫の最優品を展示する。

▽『台北国立故宮博物院を極める』（とんぼの本）、板倉聖哲・伊藤郁太郎編、新潮社、二〇〇九年

ISBN-10: 4106021862 / ISBN-13: 978-4106021862  
▽『故宮博物院物語』新訂版、古屋奎二著、二玄社、一九九二年

◇東京国立博物館 <http://www.tnm.jp/>  
東京都台東区上野公園13-9

日本美術・東洋美術に関して日本最大で極めて充実したコレクションを持つ。東洋館という、日本以外のアジア美術を広く展示する棟があり、陶磁器から書畫まで、常時優秀な作品に接することができる。近時、当館のコレクションを紹介する書籍も刊行されている。

▽『東洋美術をめぐる旅——東京国立博物館 東洋館』（コロンナ・ブックス）、東京国立博物館著、平凡社、二〇一三年  
ISBN-10: 4582634885 / ISBN-13: 978-4582634884  
▽『井浦新の美術探検 東京国立博物館の巻』井浦新著、東京国立博物館監修、東京美術、二〇一四年

ISBN-10: 4808709805 / ISBN-13: 978-4808709808

▽『こんなに面白い東京国立博物館』(とんぼの本)、新潮社  
編、東京国立博物館監修、新潮社、二〇〇五年  
ISBN-10: 4106021242 / ISBN-13: 978-4106021244

◇書道博物館 <http://www.raifocry.net/zaidan/shodou/>

東京都台東区根岸二丁目10-4

明治から昭和にかけて、洋画家、書家、書道研究者として活躍した中村不折の個人コレクションを収蔵する。不折は中国旅行を経て東洋の書道に大きな関心を寄せるようになり、その研究のために、甲骨から、青銅器、玉器、璽印、石経、仏像、碑碣、墓誌、文房具、碑拓法帖、経巻文書まで、書道にかかわる品々を範囲広く優品を所蔵している。現在は台東区立となり、紙媒体のものは企画展などで随時公開されるが、青銅器、玉器、璽印、仏像、碑碣、墓誌などは常時展覧されており、いつでも東洋の書道の魅力に触れることができる。

▽「あの人、こんな字!——歴史上の人物たち」《中国編》二〇一七年九月二二日〜二〇一七年一月一七日

◇泉屋博古館 <https://www.sen-oku.or.jp/>

〈京都館〉京都市左京区鹿ヶ谷下宮ノ前町24

〈東京館〉東京都港区六本木一丁目5-1

財閥・住友家、とりわけ住友家第一五代当主春翠が蒐集したものを中心とする。ジャンルとしては中国青銅器・鏡鑑を中心に中国明清代の絵画にも及ぶ。なかでも青銅器は質量ともに世界有数で、青銅器の美的世界を十分に堪能できる。また書画には南宋時代の正統派絵画「秋野牧牛図」のほか、明清時代の独自の風格を持つ絵画「安晚帖」や「黄山図巻」など、魅力あふれる絵画をもつ。東京館でも住友コレクションが随時展覧される。

◇五島美術館 <http://www.gotoh-museum.or.jp/index.html>

東京都世田谷区上野毛三丁目9-25

東京急行電鉄を創設した五島慶太の美術コレクションを保存・展示するため一九六〇年開館。所蔵品は日本・東洋の古美術、とりわけ禅僧墨蹟などの書跡類、絵画、陶磁器などを多く所蔵する。

▽「大般若経と禅宗」二〇一七年八月二六日〜二〇一七年一月二五日

◇静嘉堂文庫美術館 <http://www.seikado.or.jp/>

東京都世田谷区岡本二丁目23-1

美術館のみならず、優れた漢籍を多く所蔵する専門図書館も持つ。三菱財閥の第二代岩崎弥之助・第四代岩崎小弥太父子の収蔵の古典籍・古美術コレクションを基礎に成立。とりわけ書画・刀剣・陶磁器に優れる。

▽「あこがれの明清絵画——日本が愛した中国絵画の名品たち」二〇一七年一〇月二八日～十二月一七日

◇澄懷堂美術館 <http://chokaido.jp/>  
三重県四日市市水沢町2011

三重県にある中国書画専門の美術館。政財界で活躍した山本悌二郎（一八七〇—一九三七）が明治から昭和初期にかけて収集した宋・元・明・清時代の書画を収蔵している。中国本土での評価を承けつぐ審美眼は、日本のほかの美術館には見られないもので、収集品を通して学ぶべき点が極めて多い。今期より移転し、さらに鑑賞に適した環境が整えられた。知名度は高くないが、中国美術、とりわけ書画理解のために訪問必須の美術館である。本書紹介記事参照。

◇京都国立博物館 <http://www.kyohaku.go.jp/index.html>  
京都市東山区茶屋町527

四館ある国立博物館の一つで一八九七年に開館。主に平安時代から江戸時代にかけての日本の文化財を収集・展示するが、中国書画の展示室も設けられている。今秋は開館一二〇周年記念の特別展覧会「国宝」が開催され中国美術の名品が出陳される。

▽「開館一二〇周年記念展覧会 国宝」二〇一七年一〇月三日

～一月二六日 [http://www.kyohaku.go.jp/jp/special/pdf/2017\\_kokuhito\\_list\\_0905.pdf?ver=09](http://www.kyohaku.go.jp/jp/special/pdf/2017_kokuhito_list_0905.pdf?ver=09)

◇大和文華館 <http://www.kinetsu-g-hd.co.jp/culture/yamato/>  
奈良県奈良市学園南一丁目11-6

一九四六年、近畿日本鉄道（近鉄）によって財団法人が設立され、一九六〇年に開館した東洋美術を収蔵・公開する美術館。個人コレクションを出発点とする美術館が多い中で、当館は構想を踏まえてコレクションが形成され、そのため収集者の個人的な嗜好ではなく美術品としての価値を最優先して収集された点に特色がある。所蔵品は中国、朝鮮半島、日本を中心とした東洋古美術で国宝四件を含む。奈良・大阪間の自社沿線沿いに設置されている。

▽「宋と遼・金・西夏のやきもの」二〇一八年一月五日～二月一八日

◇奈良国立博物館 <http://www.narahaku.go.jp/>  
奈良市登大路町50

四館ある国立博物館の一つで一八九五年に開館。主に仏教美術を中心とした文化財を収集・展示する。中国船載の美選品を多数含む「正倉院展」が毎年開催される。

▽「第六九回正倉院展」二〇一七年一〇月二八日～十一月一

三日 <http://www.narahaku.go.jp/exhibition/2017/toku/shosoin/>  
2017shosoin\_index.html

◇寧楽美術館 <http://www.isuien.or.jp/museum.html>  
奈良市水門町74

中村家三代の収集した古代中国の青銅器・古鏡・古銅印、拓本類を収蔵。とりわけ古鏡・古銅印は著名で、今秋も特別展が開かれる。

▽[寧楽美術館の印章——方寸にあふれる美]二〇一七年一〇月一日～二〇一八年三月一日

◇大阪市立美術館 <http://www.osaka-art-museum.jp/>  
大阪市天王寺区茶臼山町1-82

住友家から寄贈を受け、一九三六年に開館した。仏教美術、中国の絵画や書、ほか金工・漆工・陶磁など貴重な工芸品を数多く所有する。中国書画では阿部コレクション、中国石仏では山口コレクションが知られる。

▽「長尾雨山の見た中国書画」二〇一七年九月二日～一〇月一日 <http://www.osaka-art-museum.jp/wordpress/wp-content/uploads/2017/03/159c423c5f999f1a6071ce11da34508.pdf>

▽「古銅の美——中国と日本の金属工芸」二〇一八年二月二四日～三月二五日

◇大阪市立東洋陶磁美術館 <http://www.moco.or.jp/>  
大阪市北区中之島一丁目1-26

世界的に有名な陶磁器コレクションである「安宅コレクション」を住友グループが大阪市に寄贈して設立されたもので、一九八二年開館。所蔵品は「安宅コレクション」の中国・韓国陶磁を中心に、ひろく東洋陶磁全体を対象としている。質・量ともに世界第一級である。

▽「イセコレクション——世界を魅了した中国陶磁」二〇一七年九月二三日～二月三日

◇和泉市久保惣記念美術館 <http://www.ikm-art.jp/index.html>  
大阪府和泉市内田町三丁目6-12

地元の綿織物業者「久保惣」から、古美術品のコレクションなどの寄贈を受け和泉市が一九八二年に開館した美術館。国宝二件をふくむ優れた東洋古美術を所蔵公開しており、近時は中国近代絵画をはじめ、東洋美術のコレクションがさらに充実しつつある。また常設展・特別展とも充実した企画が常に組まれている。公開が比較的新しく、また都市部から離れているため訪問の機会を得にくいのが、東洋古美術の理解・鑑賞に好適・必須の美術館である。

▽「中国の神々と神獣——拓本と青銅鏡」二〇一七年二月一六日～二四日、二〇一八年一月五日～二月二八日

◇白鶴美術館 <http://hakutsuru-museum.org/>  
兵庫県神戸市東灘区住吉山手六丁目1-1

白鶴酒造創業家の嘉納治兵衛（一八六二—一九五二）の収集品を展示するために設立され、一九三四年から公開されている。個人コレクションの美術館として有数の歴史を持つ。収蔵品は仏教美術、青銅器、金銀器、陶磁器を中心に、質・量ともに充実している。

▽「白鶴美術館の中国陶磁器——寿福の造形・明時代作品を中心に」二〇一七年九月二〇日～十二月一〇日

◇ ◇

◇九州国立博物館 <http://www.kyuhaku.jp/>  
福岡県太宰府市石坂四丁目7-2

四つ目の国立博物館として太宰府に開館。アジアとの交流に焦点をあてた展示方針で中国、朝鮮半島との美術的交流がわかりやすく展示されている。今春「王羲之と日本の書」（二〇一八年二月一〇日～四月八日）が開催される。

◇永青文庫 <http://www.eiseibunko.com/index.html>  
東京都文京区目白台一丁目1-1

江戸時代、熊本藩主を務めた細川家の収蔵品を保存・展示する。細川家は桃山時代の幽斎・三斎、近代の細川護立という文人を擁して、優れたコレクションとなつている。昭和二五年、財団法人となり、公開された。茶道具など以外にも多くの中国美術品を持ち、とりわけ戦国時代の金銀錯狩猟文鏡は国宝に指定されている。また石仏も優品を収める。

◇根津美術館 <http://www.nezu-muse.or.jp/>  
東京都港区南青山六丁目5-1

東武鉄道を起こした根津嘉一郎のコレクションを中心とする日本・東洋古美術の広いジャンルにわたつて作品を所蔵する。茶道具をはじめとする日本美術品が多いが、書跡、金工、彫刻、陶磁器に関しては中国美術品の優品を多く所蔵する。

◇ ◇

そのほか、中国美術に関する重要美術館は以下のとおり。

◇出光美術館 <http://idemitsu-museum.or.jp/>  
東京都千代田区丸の内三丁目1-1 帝劇ビル9階

◇松岡美術館 <http://www.matsuoka-museum.jp/>

東京都港区白金台五丁目12-6

◇藤井斉成会有鄰館 <http://www.yuinkan-museum.jp/index.html>

京都市左京区岡崎円勝寺町44

◇北海道立函館美術館

<http://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/hb/index.htm>

北海道函館市五稜郭町37-6

◇正木美術館 <http://masaki-art-museum.jp/>

大阪府泉北郡忠岡町忠岡中二丁目9-26

◇山口県立萩美術館浦上記念館

<http://www.hun.pref.yamaguchi.lg.jp/>

山口県萩市平安古町586-1